

【環黄海経済・技術交流会議の各事業の結果】

● 環黄海ビジネスフォーラム(11月20日(火)9:30~13:30)

環黄海地域における、医療・ヘルスケア産業・電子商取引・環境・エネルギー産業における各国の共通課題や技術連携等について、3ヶ国より取組事例発表及び今後の連携方策等の提案を実施。

(日本側登壇者)

Session1 医療・ヘルスケア産業

「2025年に向けた 医療・介護ロボットの取組み」

(株)安川電機 営業本部 ヒューマトロニクス営業部 部長 豊田 真 氏

Session2 電子商取引

「防災技術と商品のEコマースの現状」

(一社)日本防災プラットフォーム 事務局長 土井 章 氏

Session3 環境・エネルギー分野

「輻射式冷暖房システム「エコウイン」日本での実績と、日中韓連携による、韓国事業展開の成果報告」

(株)エコファクトリー 代表取締役社長 村上 尊宣 氏

● 産業団地・特区協力フォーラム(11月20日(火)9:30~14:45)

3国の「産業団地の建設と運営、投資誘致」や「特区制度による地域・経済活性化」の政策、事例、ノウハウ、経験を共有し、協力案などを議論。

(日本側登壇者)

福岡市総務企画局企画調整部企画課 課長(国家戦略特区担当) 中島 圭一 氏

「グローバル創業・雇用創出特区について」

北九州市企画調整局地方創生推進室 特区担当係長 佐藤 幸博 氏

「アジアに開かれた国際技術都市について~北九州市における国家戦略特区の取組~」

※福岡市・北九州市における国家戦略特区の取組について発表

● 環黄海三国局長会議(11月20日(火)9:50~12:50)

今後の環黄海地域における地域間交流の促進、イノベーションを通じた新産業・新市場の創出に向け、三国の共通する課題や今後の取組の方向性等について意見交換を実施。

● 本会議(11月20日(火)15:00~18:20)

各国代表による挨拶及び環黄海ビジネスフォーラム及び産業団地・特区協力フォーラムの総括のほか、三国経済・技術交流事例紹介及び提案事項の発表、第四回環黄海経済・技術交流大賞表彰式を実施。

・九州側代表:九州経済国際化推進機構会長 麻生 泰((一社)九州経済連合会 会長)

九州経済産業局長 塩田 康一

・韓国側代表:産業通商資源部 盧 建基(ノ・コンギ)通商協力局長

・中国側代表:商務部亜洲司 楊 偉群(ヤン・ウェイチュン) 副司長

(日本側登壇者)

「九州発の太陽光発電 O&M ビジネスの展望と韓国・中国との連携可能性」

(公財)九州経済調査協会 調査研究部 次長 藤井 学 氏

「環黄海経済・技術交流会議を契機とした、日中韓協力に関する九州経済連合会の活動について」

(一社)九州経済連合会 常務理事 平井 彰 氏

(環黄海経済・技術交流大賞受賞者)

- ①企業等法人・個人部門 環境テクノス(株)
- ②地方公共団体・経済団体部門 (公社)福岡貿易会

※「環黄海経済・技術交流会議」とは

東アジア・環黄海地域の経済圏域の発展と交流の深化を目指す交流プラットフォームとして、2001年3月にスタート。これまでに九州・韓国・中国の順に持ち回りで16回開催。三国政府(日本:九州経済産業局、韓国:産業通商資源部、中国:商務部)によるコミットのもと、年一度、三国の産学官関係者が一堂に集い産・学・官のそれぞれの交流を深化させることを目的として開催しています。

第10回日中韓経済貿易大臣会合(2015年10月30日、韓国・ソウル)においては、「環黄海経済・技術交流会議」がこれまで成功裡に運営されてきたことについて確認され、また、2018年5月9日に東京で開催された第7回日中韓サミットにおける共同宣言の付属文書にも盛り込まれました。

- ※第1回:福岡市、第2回:韓国全州市、第3回:中国威海市、第4回:宮崎市、第5回:韓国大田広域市、第6回:中国日照市、第7回:熊本市、第8回:韓国仁川広域市、第9回:中国煙台市、第10回:北九州市、第11回:韓国太田広域市、第12回:中国連雲港市、第13回:佐世保市、第14回:釜山広域市、第15回:中国塩城市、第16回鹿児島市

